

まちのわだい

裸の男性たちの祭典

〜蛸舞式神事〜

日本三大奇祭の1つ「蛸舞式神事」が、10月21日、福岡神社で行われました。

蛸舞式神事は、福岡神社の祭神・速玉男命が嵐で遭難した際に「大蛸」に助けられたという故事にちなんだ祭りです。鳥取県の無形民俗文化財に指定されています。

祭りは、境内にある舞堂で、ふんどし一丁になった氏子たちが、藁で作った蛸をもつ男性を神楽囃子にあわせ幾度となく担ぎ上げ、蛸の舞を演じた後、丸梁に抱きついた男性を下から大勢で回転させます。今年は七五三の子を持つ父親2人が大役を務めました。

神楽の笛と太鼓が厳かに鳴り響くなか、全員が「それ、それ」と声を掛けながら、丸梁をぐるぐる回していき、堂内は熱気に包まれ、皆汗だくになりながら神事を執り行っていました。



藁の蛸を持った男性を担ぎ上げる氏子たち

秋の日光路を散策

〜さわやか歩キングの集い〜



一般参加者に加ってトリピーも参加

秋の伯耆町を歩く「ウォーキング事業」さわやか歩キングの集いが10月27日に開催され、67名の参加者は、紅葉の大山を望む約6kmのコースをさわやかに完歩しました。

この事業は「鳥取県19のまちを歩く」事業に認定されており、鳥取県から派遣された吉本芸人のユウトさん、準備運動のインストラクター松田さんが参加し、イベントを盛り上げました。参加者たちは、大山の紅葉を楽しみながら、それぞれのペースで秋の日光路を歩いています。

和牛のオリンピックを終えて

〜第10回全国和牛能力共進会〜

10月25日から29日まで、第10回全国和牛能力共進会が長崎県で開催され、各県から出品された代表牛の成績が発表されました。

全国和牛能力共進会は、大きく種牛の部と肉牛の部に分かれ、ともに和牛日本を審査する5年に一度の大会です。この大会に鳥取県の代表として出場した26頭のうち、8頭が伯耆町から出場しました。成績は、木嶋泰洋さんの出品した3頭の和牛が、第6区高等登録群で優等賞3席に入賞したほか、同じく木嶋さんと渡辺貞男さん、宮崎浩樹さんが出品した4頭の和牛が、第5区繁殖雌牛群で優等賞4席に入賞するなど、好成績を収めました。

圧倒的な頭



審査に臨む伯耆和牛たち

地元特産品で伯耆町をアピール

〜森と清流の里ふれあい祭〜

伯耆町産の新鮮な野菜や加工品などが販売される森と清流の里ふれあい祭が、10月21日、大山ガーデンプレイスで開催されました。

この祭りは、地元の生産者と消費者の交流を目的に、毎年この時期に開催されています。会場には約30店舗のブースが設けられ、地元の農産物を中心に、おこわや草餅などの販売や、景品抽選会などが行われました。

20回以上の歴史を持つこのイベント。近年は雨の日の開催が続いていましたが、今年は好天に恵まれ、例年よりもたくさんの方が訪れ盛況に開催されました。



農産物を買求める来場者

笑顔と対話のむらびづくり

〜吉定文化展〜

吉定区公会堂で11月10日、住民たちの作品を展示した吉定文化展が開催されました。今年で3回目となり、実行委員会を中心に準備を進めてきました。公



挽き立て、茹がしたての手打ちそばを楽しむ参加者

会堂には、絵画や写真、手芸品など、子どもからお年寄りまで、幅広い年代の作品が並びました。この他にも、今年ラジコンヘリで撮影した上空からの吉定集落のビデオが上映され、訪れた人たちの目を引いていました。また、豚汁や手打ちそばの提供もあり、来場者にふるまわれました。

吉定では今年、宝くじ助成金制度により、テントや会議テーブル、椅子、ワイヤレスアンテナ、プレハブ倉庫などを購入しました。この制度は、コミュニティの健全な発展を図ることを目的に助成が行われるものです。今後これらの備品を活用し、地域の活性化に向けて様々な事業を実施することです。

さすが熟練の仕事

〜シルバー人材センター奉仕作業〜

南部広域シルバー人材センターの岸本支所と溝口支所会員による奉仕作業が、10月20日に行われました。

南部広域シルバー人材センターは、地域貢献を目的に毎年奉仕作業を行っています。この日は、朝9時から役場本庁舎と溝口中学校に分かれて作業を開始。役場本庁舎では、玄関前の木々の剪定や除草作業を、溝口中学校では、グラウンドとその周辺の除草作業を行いました。

シルバー人材センターでは、毎年公共施設を対象に奉仕作業を実施しており、これからも続けられるそうです。



役場本庁舎で剪定する会員